

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所 双葉		
○保護者評価実施期間	7年 1月 22日	～	7年 2月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 3名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	7年 1月 22日	～	7年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 3名	(回答者数)	3名
○訪問先施設評価実施期間	7年 1月 22日	～	7年 2月 19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者とお子さんからの満足度が高い。	保護者からのお子さんが学校・保育園等でどのようなところで困っているかを聴取するほか、訪問リハビリで伺った際にお子さんの問題点や強みを抽出し保護者との共有を図っている。訪問終了後は報告書を作成し、写真などを用いながら分かりやすく説明を行っている。	定期的にホームページ・SNS等で、活動概要を周知したり、ご家族等も参加ができる研修会や情報提供の機会を設けている。
2	訪問先施設からの満足度が高い。	対象のお子さん、ご家族、訪問先スタッフ、支援員で現状の問題点や強み等の共有を積極的に行っている。訪問先スタッフからの相談があった際なども、積極的に対応している。訪問終了後は報告書を作成し、写真などを用いながら分かりやすく説明を行っている。	定期的にホームページ・SNS等で、活動概要を周知する。保育所等訪問支援という事業自体を周知していく活動を行っていき、スムーズな導入が出来るようにする。
3	訪問支援員が対象のお子さんの強みと弱みを知り、適切な情報提供・支援方法の共有などが行われている。	当事業所では、保育所等訪問支援と訪問リハビリを併用して頂いており、お家と訪問先の2つの様子を知り、対象のお子さんにとってどのような支援が好ましいかを豊富な判断材料から考えることができている。また、訪問先スタッフが把握しにくいお家の状況についても共有を積極的に行っている。	支援の質をより高めるために、外部研修への参加や内部研修などを行っていく。また、ケース会議を実施し様々な職種からの意見を頂く機会を作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの中で、ガイドラインを把握している人としていない人がいるため、どの支援員が訪問しても支援内容に差が生まれないようにする必要がある。	保育所等訪問支援の概要について知る機会が少ない。	各支援員が行っている支援内容について共有を行える場を設け、ガイドラインに則った支援を行えるように指導などを行う。
2	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等の策定は出来ているが、内容把握や実際に発生したことを想定した訓練を実施できていない。	訪問支援員が集まり、ヒヤリハットの共有やインシデント・アクシデント想定した訓練を行う事ができていない。	訪問支援員が集まる機会をつくり、想定した訓練の一環としてロールプレイ・ディスカッションやヒヤリハットの共有を行い、実際に発生した際に迅速な対応を行う必要がある。
3	地域の子ども・子育て会議などへの参加が出来ていない。保育所等訪問支援の活動概要を発信できていない。	訪問リハビリ業務と並行しているため、業務時間の関係上参加することへの難しさがある。	当事業所での取り組みを発信する場として、SNS・HP・パンフレットなどでの活動発信や訪問リハビリで伺った際に保護者へ事業内容についてお伝えをしていく。